

PROGRAM

◆ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98

Johannes Brahms(1833-1897) : Sinfonie Nr.4 e-moll op.98

第1楽章：アレグロ・ノン・トロッポ

第2楽章：アンダンテ・モデラート

第3楽章：アレグロ・ジョコーソ

第4楽章：アレグロ・エネルジーコ・エ・パッシオナート

† † † † † † †

◆ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 作品68

Johannes Brahms(1833-1897) : Sinfonie Nr.1 c-moll op.68

第1楽章：ウン・ポーコ・ソステヌート／アレグロ

第2楽章：アンダンテ・ソステヌート

第3楽章：ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラツィオーソ

第4楽章：アダージョ／ピウ・アンダンテ／アレグロ・マ・ノン・トロッポ

PROGRAM NOTES

◆ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98

20年もの歳月をかけて完成した交響曲第1番、美しいペルチャツハ湖畔で完成され「ブラームスの田園」と評される第2番、ハンス・リヒターの指揮により空前の大成功をおさめた第3番。続く第4番は1884年から翌年にかけての夏の休暇に、ウィーン南西の街ミュルツツォーシュラクで書き上げられ、これがブラームス最後の交響曲となった。

第4番の作曲に際し、ブラームスは対立するワーグナー派（ワーグナー自身は既に1883年に没していたが）の妨害や中傷を警戒し、完全なまでの秘密主義を貫き、親しい友人たちにさえ詳しい作曲状況を隠し続けた。1885年、夏の休暇を終えたブラームスは、10月8日になってようやくウィーンの自宅に友人を招き新しい交響曲の2台のピアノ編曲版を披露した。試弾に立ち会った批評家のハンスリックやカルベッ

ク、指揮者のリヒターなどの反応は様々であったが、古風な教会旋法を用いた第2楽章やバロック時代のバッサカリアの形式（低音の主題に基づく変奏曲）を用いた終楽章など、作曲技巧が複雑すぎ一般の聴衆が理解できるか懸念する声が多かったという。大幅に改訂した方がいいという意見もあったが、ブラームスは当初の構想を変更せず、同年10月25日マイニンゲン宮廷楽団、ブラームス自身の指揮によりついに初演を迎えた。

マイニンゲン公ゲオルク2世はブラームスの良き理解者であり、ブラームスはオーケストラと十分なリハーサルを重ねることができたこともあり、友人たちの心配をよそに交響曲第4番は好評をもって迎えられた。楽章が終わるごとに長い拍手が起こり、特に第3楽章はその場ですぐにアンコールされ



ブラームスの写真[1883年頃]